１０月

新羽小だより

令和4年（2022年）９月30日
第581号
横浜市立新羽小学校
Tel 543-8871 Fax 543-2915

ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nippa

「注連引き百万遍」

校　長　　佐藤　恵子

朝晩の風に秋の到来を感じる頃となりました。保護者の皆様には、日頃の学習活動のサポートボランティアや保護者懇談会へご参加いただき、誠にありがとうございました。保護者懇談会では、学年の様子、通知票「あゆみ」の内容、直近の行事などについて担任より話をしました。この秋には複数の学年で校外学習や出前授業を計画しています。健康安全面に配慮しながら実りある学習活動ができるように準備を進めております。

さて、児童門横の桜の木にわらで作った大きな蛇が巻き付いているのをご存じでしょうか。新羽地域に古くから伝わる「わら蛇」です。コロナ禍以前には、毎年新羽小の３年生が地域の方と一緒にわら蛇を作る体験学習をしていました。この１０月、コロナ禍で２年間実施を取りやめていた「わら蛇」作りを再開します。「わら蛇」について、新羽小にある資料をもとに紹介します。

昔の人たちは、村の外から悪い病気や災難が村の中に入り込むのを防ぐために村の出入り口でお祈りやおまじないをしました。これを「道切り」と言います。全国各地にいろいろな呼び方がありますが、港北区域では「注連引き」と言われました。注連とはしめ縄のことで、しめ縄を張って村の中を神聖な場所にしました。こうした行事は、浅間山が噴火し天明の大飢饉（1781～1788）の頃、日本各地で疫病が流行り、わら蛇を作って病魔を退散させたことを旅人が新羽の人たちに教えてくれたのが始まりだそうです。新羽の中之久保では「注連引き百万遍」といいました。中之久保は、村の入口が南・北・西の三方向ありました。そこで毎年 4 月 15 日に男の人たちがわらで 3m ほどの大きな蛇を三体作って三方向の入口の柊の木に巻き付けてお神酒を注ぎました。女の人たちは 5 月 1 日に百万遍念仏を唱えました。祭られたわら蛇は、そこから一年間、悪い病気から村を守り続けました。この行事は第二次世界大戦の影響で中断していましたが、昭和 54 年に新羽小中学校の開校を期に復活され、地元の方の協力により昔のままに再現されました。平成 9 年からは新羽小学校の学習活動の一つに取り入れられました。毎年稲刈りが終わった秋、地域をテーマに学習する 3 年生が保存会の皆さんに作り方を教わり、保護者ボランティアの方と一緒に 60cm ほどの小さなわら蛇を作って、各家庭に持ち帰ります。大きな蛇は新羽小・新羽中・新田小の正門わきの木に巻き付けます。

古くから伝わる新羽の伝統について学び、人々の無病息災と子どもたちの健やかな成長を願い、わら蛇づくりに挑戦したいと思います。伝統を受け継いできた祖先への尊敬と感謝の心が育つことを祈ります。